

## 今月の症例

### 超高齢者に対する、開腹しない、からだの負担の少ない大動脈瘤治療 ～腹部ステントグラフト内挿術～

症例： 88歳 女性

主訴： 無症状

経過： 急性大動脈解離の診断で当院救急搬送となり、上行大動脈置換術を施行した。術前から腹部大動脈瘤を指摘されており、術後21日後に経過安定していたため、ステントグラフト内挿術の方針となった。

既往： 高血圧、認知症

診断： 腹部大動脈瘤 50mm

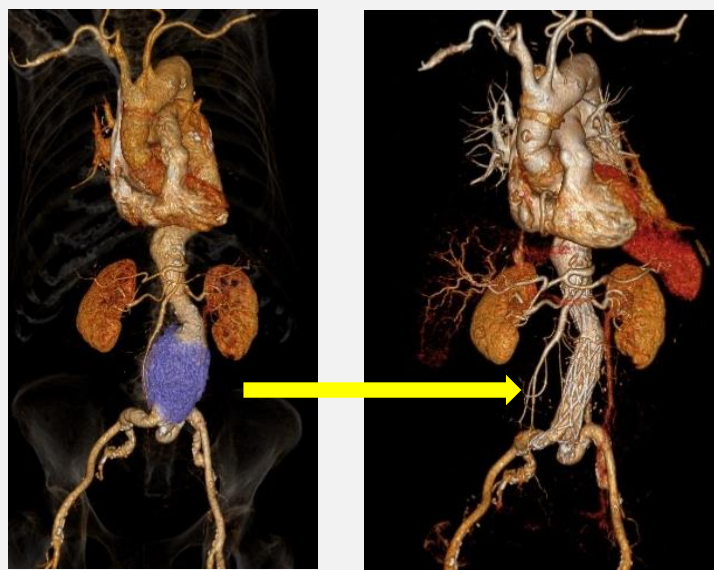
手術： 腹部ステントグラフト内挿術  
(手術時間 約1時間)

術後1週間で独歩退院  
超高齢者でも安全に  
治療可能です



文責 前川 浩毅

瘤内にステントグラフトが内挿され、  
大動脈瘤は消失した。



## スタッフ紹介 Vol.11



小林 克也

(こばやし かつや)

医師

集中治療科 部長

1973年生 茨城県出身

2019年4月より勤務しております。

私は麻酔科医師ですが当院では集中治療科専任となっており、心臓血管外科においてはICUでの術後管理を担当しております。循環器専門病院ではICU術後管理は外科医主体で行う施設が多いかと思いますが、当院では平日日勤帯はほぼ分業体制が取れています。専任医師が常駐する事で患者の容態に遅滞なく対応できると同時に、外科医が手術に専念しやすい体制作りに貢献できればと考えております。

過去のアーカイブはこちら →

